

製品開発における OSS 導入のための OSS 事前評価手法確立に向けた調査

松本 卓大[†] 山下一寛[†] 亀井 靖高[‡] 鷗林 尚靖[‡]
九州大学大学院システム情報科学府
[†]{matsumoto, yamashita}@pos1.ait.kyushu-u.ac.jp
[‡]{kamei, ubayashi}@ait.kyushu-u.ac.jp

大浦 雄太 岩崎 孝司 高山 修一
富士通九州ネットワークテクノロジーズ
(QNET)

要旨

本研究では、製品にオープンソースソフトウェア (OSS) を導入するか否かを判断する目安として、OSS の品質を事前に把握するための評価手法の確立を目指す。本発表では、事前評価を開発の現場で実施するにあたって必要となる 1) 開発者が OSS に求める品質、2) 品質を評価するために必要な評価指標の取得時間の 2 点について調査を行った。

1. 製品開発における OSS 導入と課題

近年、開発コストの削減、および、高品質な製品開発実現のために、企業における製品開発への OSS 導入が増えている [1]。しかしながら、低品質な OSS を適用することで製品自体の品質を低下させてしまい、その品質改善のために見積もり以上のコストがかかってしまうことがある。製品に OSS を導入することによる想定外のコスト増加を防ぐためには、導入する OSS の品質を事前に把握しておくことが望ましい。

OSS の事前評価に関して、これまでも様々な取り組みが行われてきた [2][3]。しかしながら、既存の OSS の事前評価に関する取り組みは、「取得方法が不明な評価指標の存在」、「スコアリングルールが曖昧な項目が半数」などの問題が挙げられる。いずれの事前評価手法も開発の現場での利用にまで定着していない。事前評価を実際開発の現場で実施するためには、実施にあたって障害となっている問題に関して調査する必要がある。

本稿では、OSS の品質を事前に評価するための手法を確立することを目的とし、事前評価を実際開発の現場

で実施するにあたって必要となる項目に関して行った調査項目について述べる (詳細はスライド参照)。

2. 調査項目

開発者が OSS に求める品質：開発プロジェクトによって OSS の利用形態は異なり求める OSS の品質も異なってくる。各プロジェクトが求める OSS の品質について、QNET の開発部門を対象にヒアリングでの調査を行った。

品質を評価するために必要な評価指標の取得時間：事前評価にあたって評価指標が必要となる。継続的に事前評価を行うには OSS の進化にあわせて評価指標を更新する必要があり費用がかかる。更新のための費用が大きすぎると実用的ではない。必要な評価指標に対して手動で取得を行い、OSS1 件あたりの取得時間について調査を行った。

参考文献

- [1] 独立行政法人情報処理推進機構. 第 3 回オープンソースソフトウェア活用ビジネス実態調査. 2010.
- [2] Etiel Petrinja, Alberto Sillitti, and Giancarlo Succi. Comparing openbr, qosos, and omm assessment models. In Open Source Software: New Horizons, pp. 224238. Springer, 2010.
- [3] OSS Northeast Asia. Reposs: A flexible oss assessment repository. 2012.